

財団法人 8020 推進財団

平成 21 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名 : 3, 4, 5 歳児の親子歯科健診における、親子間のう蝕、歯周病リスク因子の関連性調査

2. 申請者名 : 社団法人 千葉市歯科医師会

3. 実施組織 : 社団法人 千葉市歯科医師会

4. 事業の概要 :

口腔の 2 大疾患である齲蝕と歯周病は感染症である。しかしその成立には、宿主の生活習慣および体質も関与してくるため、一般の人の間では感染症であるという認識が低い。その予防には感染のルートと感染時期を明らかにし、それに対する対策を取ることは最も有効な手段である。特に歯周炎に関してはその罹患者数の増加が認められている点から対策が必要とされている。しかし、これらの病原体の感染ルートと時期に関しては未だ不明な点が多い。本プロジェクトでは、齲蝕原性菌および歯周病原性菌の感染について親子歯科健診の患者を対象として解析を加えその定着時期を明らかにすることを目的とした。

5. 事業の内容 :

親子歯科健診時に唾液を採取し唾液中のミュータンスレンサ球菌群および歯周病原性菌 (*Aggregatibacter actinomycetemcomitans*, *Porphyromonas gingivalis*) の検出を行った。親の年齢は、20 歳代が 2 人、30 歳代が 30 人、40 歳代が 2 人、50 歳代が 1 人であり、このうち女性が 33 人、男性が 2 人であった。回答のあった 35 人のうち喫煙者は 5 人であった。子供の年齢は 3 歳から 5 歳で、男児が 21 人、女児が 15 人 (兄弟 1 組含む) であった。すべてのサンプルからミュータンスレンサ球菌群が検出された。その range は親子間で同程度であった。さらに親子での検出量について関連を比較したが相関関係は認められなかった。親子の *P. gingivalis* と *A. actinomycetemcomitans* の検出率は図 2 のようになった。

今回の検出では *A. actinomycetemcomitans* の検出率は親 (2.8%), 子 (0%) と低かったが *P. gingivalis* は 28% の親と 10.8% の子供から検出された。このうち 1 組の親子では、親、子共に *P. gingivalis* が検出された。しかし、 $\chi^2$  検定では親子間の感染の関係は認められなかった。

6. 実施後の評価 (今後の課題) :

低年齢児での細菌叢の解析は今まで報告が少ない。特に、歯周病原性菌の検出については非常に少ないため疫学的な意義が認められる。とくに、10% 程度の子供の唾液から歯周病原性菌の検出が認められたことは注目に値する。この結果は、歯周病原菌の定着が非常に早い時期で起こっていることを示し、歯周炎の予防の戦略を考えるうえで非常に重要な情報となっている。しかし、今回のデータではまだ例数が少ないため、今後はその信頼性を含めてさらに例数を増やして解析を行いエビデンスとなり得るまでデータを確実にすると共に、早い時期からの予防による効果を検証すると言った臨床応用への方向性を行いながら今後の活動を行っていく必要がある。